
国立レイビア学園日常記 2

咲宮優梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

国立レイビア学園日常記2

【Nコード】

N1832L

【作者名】

咲宮優梨

【あらすじ】

国立レイビア学園。そこは特殊能力を持つ少年たちが通う学校。今日もゆるやかに過ごす少年たちの日常が語られる――……。

(前書き)

1と話はリンクしていますが、読んでいなくてもわかるようにしています。

もし、興味があれば1も読んでみてください。

国立レイビア学園。そこは特殊な能力を持つ少年が通う学校。

特殊能力は多岐にわたり、それはいくつかの種類に分けられている。

攻撃系リベス、防御系タルカ、補助系サンス。

そして千年に一度といわれる全能系エリエル。

攻撃系担当教師がする講義という名の、ただ教科書を読みあげる時間リベスが過ぎていく。

彼はきつと生徒のほとんどが寝ているか、ぼうっとしていることに気付いてはいない。

気付いていればとくに、注意し、そして立たせているからだ。

「んとに……なんで気付かないんだろ？」

「そこ！うるさい。講義中は静かに」

寝ている者には気付かないが、ぼそりと呟いたスレイヤの疑問は聞こえたらしい。

（余計なトコは地獄耳だよな……教師って）

もう一度注意されれば、この教師のことだ、容赦なく廊下に立たされる。

スレイヤは以前そういう目に遭っているので、よくわかっている。

目の前の机に転がっている鉛筆を指でもてあそびながら、スレイヤは中庭のあるほうに目を向ける。

今頃、中庭では補助系サンスにいる友人が刀剣訓練授業をしているのだらう。

こんなくだらない講義より、刀剣訓練のほうがよっぽど面白いとスレイヤは思う。

教科書を読み上げるだけなら、文字を覚えたばかりの赤子にでも出来る。

(どうせ教師として教えるってんなら、生徒が一生懸命勉強に励めるような工夫をしてくれればいいのに)

……工夫したところでスレイヤは決して、勉強に励んだりしない。実技で十分に評価をもらえているスレイヤにとっては、筆記などどうでもいいことなのだ。

補助系サンスにいるリインという真面目で小柄な少年には、何があってもいいように勉強はしておけと言われ続けている。

しかし、それでもスレイヤの中に「やる気」と「勉強」なんていう文字はないのだから。

スレイヤがくだらないことを考えている間に、授業終了&昼休みの鐘が鳴る。

担当教師からの号令がかかるのを待ってから、スレイヤは教室を飛び出していった。

きっと中庭のほうでは、友人のリインとヒシヨウが話しながらゆっくりと食堂に向かっているだろう。

スレイヤが今のスピードのまま走れば、食堂の入口で絶対に会える。

食堂にスレイヤがついた時には、食堂には大きな人の波が出来ていてどこにだれがいるかなんてわからなかった。

スレイヤ自身も食堂の入口についた瞬間に、人波に流されてしまったから、もし2人がいてもわからなかっただろう。

「スレイヤ！こっちこっち、もう席とってあるから」

「……！おう、すぐ……ちょっと時間かかるかも」

声のするほうを見て、リインの座っている席までの間には並んでいる生徒たちが列をなしている。

間を通り抜けようものならば、割り込みと判断され容赦なく弾き飛ばされるので、列の最後尾を回ってからリインのところに行く。

スレイヤが辿り着く頃には、料理を受け取りに行っていただろうヒ

シヨウも帰ってきていた。

自分の分の料理を受け取り、ヒシヨウの前に座る。

その食事の直後、スレイヤは何気なく思った事を口に出して、ヒシヨウとリインに爆笑され、食堂にいた全員からうわさものにされるということとは、きっと誰も予想していなかっただろう。

「 、 」

(後書き)

レイビア短編シリーズ1の同時刻、違うキャラが主人公です
何を言われても気にせず、大雑把でずさんなスレイヤ君W
彼が最後に言った言葉は

「友達になってくれて、ありがとう」

です。

そりゃ、笑われますよね。今まで授業の話とかしてたのにいきなり
そんなこと言われたらWW
ヒショウもリインも、スレイヤがそんなこと言うと思っていたいなかった
ということです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1832/>

国立レイビア学園日常記2

2011年1月26日02時47分発行